

## (4) 地域循環共生圏推進に向けたセミナー・ワークショップ等の開催

### 多様な主体と連携した地域循環共生圏の啓発

・ネットワークを活用した研修・ワークショップ等の企画運営

#### 令和2年度の成果目標

- ・森里川海×地域循環共生圏の相乗効果創出（意見交換会2回）
- ・SDGs・地域循環共生圏構築を担う人材ネットワーク形成（研修・ワークショップ2回）

#### ①森里川海推進ネットワークの形成

九州地域の自然環境・資源の発信拠点である国立公園ビジターセンターをはじめとする啓発拠点や、地域の一次産業団体と連携しネットワーク形成の場づくりを行う。

#### ア、ビジターセンターと連携したネットワーク形成会合

自治体、経済・金融機関による取組紹介を含めた情報交換会として開催。

行事名	島原半島におけるSDGsのタネ探し
開催日等	日 時：令和3年2月26日（金） 会 場：※オンライン開催
目的	島原半島における地域資源の活用・SDGs（持続可能な開発のための目標）達成に資する取組活性化のため、地域の参加者、そして先進的な取り組みを行う実践者間で、今後の活動や連携へ繋がる情報交換を行う。
概要	<p>1. 事例紹介</p> <p>「SDGs・地域循環共生圏・森里川海プロジェクトについて」 環境省九州地方環境事務所</p> <p>「地域資源に関する協働事例と社会課題解決に向けた価値提供事業」 リコージャパン株式会社 販売事業本部 自治体ビジネス本部 自治体営業部 西日本営業グループ 河野 千家子 氏</p> <p>「島原半島地域における研究教育活動紹介と雲仙市小浜温泉における温泉エネルギー活用の取り組み」 国立大学法人 長崎大学 環境科学部教授 馬越 孝道 氏</p> <p>「ジオパークの取り組みー成果と課題ー」 島原半島ジオパーク協議会 事務局次長 大野 希一 氏</p> <p>2. 登壇者による意見交換とディスカッション</p>
参加	島原半島地域の行政、企業、金融機関 30名（登壇、事務局含む）
成果	<p>地熱、観光等、豊富な地域の自然資源を持つ島原半島にて、森里川海に関する関係者ネットワークを形成することを目的に会合を企画した。</p> <p>地域にて幅広いアクターとSDGs推進に取り組む、島原半島ジオパーク協議会を実施パートナーとして、地域の課題意識や想定される関係者層の検討を行った。</p>

	<p>島原半島地域では、半島内の関係者連携の余地があり、また企業、行政等 SDGs と実践活動との紐付けがなされていないという課題があることから、地域内外の先進事例を共有する、幅広い参加者による会合を企画した。</p> <p>佐賀市をはじめとした九州地域の地方自治体との協定、また自然資源活用や地域活性化を軸にした脱炭素経営が登壇し情報提供を行った。</p> <p>島原地域近隣の小浜市にて、温泉による地熱エネルギーの活用に取り組んできた長崎大学環境科学部より、地域関係者の巻き込み手法について情報提供を行った。</p> <p>最後に、今回パートナーとして企画運営を行った島原半島ジオパーク協議会事務局より、現在島原半島地域で SDGs 実践に向けたネットワーク拡大に取り組む中で得られた成果と、今後の地域展開の課題について参加者との共有が行われた。</p> <p>その検討結果と合わせ、行政が実施する SDGs パートナー制度の登録者等、地域の企業、金融機関、行政等に参加呼びかけを実施し、マルチステークホルダーによる参加、意見交換の場を設定した。</p> <p>また地域内をはじめとした九州管内のビジターセンター職員にも参加を呼びかけたことで、地域の自然資源を活用した地域活性化や、地域循環共生圏の実現に関わる施設の役割についてのインプットを行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大に対応し、一部登壇者を含むオンライン開催となったが、事前解説、当日設営等により円滑な実施を行った。</p> <p>実施後、参加団体から地域循環共生圏企業登録制度への申し込みがあるなど、ローカル SDGs の推進の担い手とそのネットワークが地域内で構築された。</p>
<p>写 真</p>	

イ、森里川海活動団体ネットワーク交流会

地域の自然環境・資源を活用した環境保全活動・人材育成に取り組む企業（金融・保険）、NPO、自治体の取組をネットワークする交流フォーラムを開催した。

行事名	みやざきの流域圏から考えるSDGsのタネさがし
開催日等	日 時：令和3年3月12日（金） 会 場：※オンライン開催
目 的	宮崎県のSDGs推進、地域循環の構築に向けたアイデアが共有され、地域の自然環境、資源を活用したローカルSDGs実現のためのネットワークが強化されることを目的に開催。
概 要	<p>1. 事例紹介</p> <p>「SDGs・地域循環共生圏・森里川海プロジェクトについて」 環境省九州地方環境事務所</p> <p>「行政や企業との連携・協働した活動と河川をフィールドとした環境保全活動」 NPO 法人大淀川流域ネットワーク 早瀬 盟子 氏</p> <p>「地域と協働したにぎわいのある水辺創出に向けた取り組みや施策」 国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所 技術副所長 岩崎 征弘 氏</p> <p>「みやざきSDGsアクションと宮崎県におけるSDGs推進の動向について」 国立大学法人宮崎大学 産学・地域連携センター 地域人材部門 学長特別補佐 永山 英也 氏</p> <p>2. 登壇者による意見交換とディスカッション</p>
参 加	宮崎地域内外の行政、企業、金融機関等 25名（登壇、事務局含む）
成 果	<p>宮崎県にて森里川海を保全する取組推進について、河川流域に代表される広範なフィールドで活動する地域団体、企業、行政の連携を目的に会合企画を行った。地域関係者へのヒアリングから、宮崎県におけるSDGs推進に、一体的なネットワークとしての取組が求められる中、NPO等活動団体は担い手や関係者の確保、資金獲得など、取り組みの継続に課題を抱えていることから、連携が急務という課題が把握された。</p> <p>そこで会合企画では、宮崎県内河川をフィールドとする活動団体や企業、行政が、各取組を相互参照し、県内ネットワークの形成促進、環境省が提唱する地域循環共生圏の構築に向けた、プラットフォーム構築の機運醸成を目指した。</p> <p>登壇者として、地域の自然環境、資源を活用した環境保全活動者のネットワーク構築に尽力しているNPO 法人大淀川流域ネットワークから、単独の団体活動では得られない、ネットワークとしての保全、教育活動の成果について情報提供された。</p>

	<p>また、河川空間の活用を通じた、地域活性化に寄与する活動に、行政として幅広い関係者を巻き込んでいる国土交通省九州地方整備局 宮崎河川国道事務所より、行政主導から民間主導への変遷について活動事例が紹介された。</p> <p>またみやざき SDGs アクションに代表される、企業の SDGs への積極的参加と、大学生、高校生といったコースとの協働事業に取り組む、宮崎大学産学・地域連携センターより、関係者が交流し、県内全域で SDGs 推進、担い手育成の実現に向けた活動とアイデアが共有された。</p> <p>プログラムは、九州地方環境事務所から SDGs、地域循環共生圏についての情報提供が行われ、九州東部でのローカル SDGs の推進の機会ともなった。</p> <p>参加者からは、日頃交流のない異分野との交流と、機運の醸成につながる詳細な情報提供について高い評価が得られた。</p> <p>企画を通して、今後の宮崎県内における SDGs の推進と、プラットフォーム志向についてのアイデアが共有され、関係者自身によるネットワーキングの機運を高めることができた。</p>
--	--

## ②環境教育支援の場づくり

### ア、SDGs 未来都市と連携した研修・ワークショップ

SDGs 未来都市での政策的取組、地域循環共生圏構築に資する活動について、経済・金融の視点も交えた研修・ワークショップを提案し、近隣地域・自治体への周知を行い、企画運営を行った。

行事名	南九州 SDGs 活動情報交換会
開催日等	令和3年3月19日（金）10時00分～11時40分
目的	南九州エリアにおいて、積極的にSDGsを活用し、循環型のまちづくりを展開する大崎町をはじめとする、各地の取り組みについて、自治体レベルでの理解づくりと合意形成のプロセスに学び、各主体の推進を図る。
概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 趣旨説明 EPO九州の紹介と地域循環共生圏について</li> <li>3. 話題提供  <b>球磨焼酎を活用した地域経済循環～with コロナ時代のアウトバウンド～</b>  公益財団法人地方経済総合研究所  <b>みなまたから地域の学びをネットワークする</b>  一般社団法人環不知火プランニング  <b>大崎町のSDGs推進の取組</b>  大崎町企画調整課</li> <li>4. 意見交換・情報交換 ファシリテーター EPO九州</li> <li>5. 閉会</li> </ol>
成果 ・ 検討事項	<p>SDGs 推進に関して、潜在力の高い南九州における活動主体のネットワーク形成を行うことができた。</p> <p>一次産業とファンディング、環境学習をとおした人材育成、町ぐるみでの SDGs 推進それぞれの取組の魅力をとおして地域密着型の SDGs 推進の重要性が共有された。</p> <p>また、参加いただいた有識者より各取り組みの要点が整理され、通底するものとして地域に根ざした人材とその定着があげられた。</p> <p>引き続き南九州エリアでのネットワーク形成に向けた取組を継続したい。</p>

写真等	
-----	---

### イ、SDGs人材育成ワークショップ

地域 ESD 拠点など環境学習施設と連携した研修・ワークショップとしてSDGs人材育成ワークショップを鹿島市ラムサール条約推進協議会と連携し開催する。研修は同市教育委員会も共催し教員を対象とする課題研修として位置づけ教職員の質的向上を図った。

行事名	SDGsワークショップ
開催日等	令和2年8月4日（火）13:00～15:30
目的	<p>ラムサール条約湿地「肥前鹿島干潟」の保全と利活用に取り組んできた鹿島市において、教職員及び小学生向けにSDGsワークショップを開催し「持続可能な社会の創り手」を育み、世界の共通目標であるSDGsを楽しくわかりやすく学ぶことを目的とし実施する。</p>
概要	<p>1. 教員向けSDGsワンポイントレッスン 30分  2. 小学生向けSDGsワークショップ 90分</p> <p>主催 鹿島市ラムサール条約推進室  共催 九州地方環境パートナーシップオフィス  運営 一般社団法人九州環境地域づくり</p>
成果 ・ 検討事項	<p>地域ニーズをとらえた効果的な場・プログラムにより、参加者の高い満足度を獲得することができた。</p> <p>また子どもたちに影響力のある先生方へのインプットを展開し、教育活動への活用をインプットし、先進地ならではの取組として、メディアにも取り上げられ幅広い広報効果を獲得した。</p> <p><b>子どもたちの声</b>  SDGsについてくわしく（深く）知ることができた。SDGsのことをしらべてみたい。アイデアを出すのがたのしかった。</p> <p><b>先生方の声</b>  17の目標もそれぞれに意味・目標が決められていることを初めて知った。基本的な考え方がわかりました。今後の教育活動の中でぜひ活用していきたい。</p> <p><b>協議会担当者の声</b>  子どもたちが楽しく、意見を出し合っている姿が頼もしかった。ラムサール湿地についても真剣に考え、大人が思いつかないようなアイデアが発表されたことに感激した。さっそく活動に活かしてみたい。</p>
写真等	

ウ、SDGs パンフレットの作成

九州・沖縄地域におけるSDGs推進ならびに実践促進を目的として、SDGs未来都市や地域循環共生圏推進に取り組む団体等を掲載したパンフレットを作成した。



## (5) 外部連携事業（外部資金を活用した取組）

持続可能な社会づくりに向けた協働取組を担う民間団体等の育成に向けて、地球環境基金や民間企業等と連携し組織運営や資金獲得に向けた助言等を行う。また、基金団体等からの外部資金（EPO九州運営業務以外の契約業務扱い）を活用した取組として実施する。

### ①地球環境基金との連携

環境 NGO 等への助成や高校生の環境活動表彰に取組む地球環境基金と連携し、次の取組を行う。

#### 1. 助成金説明会の開催協力

催事名	2021 年度 地球環境基金 助成金説明会 熊本会場
開催日等	<p>日時：令和2年10月23日（金）18：30～20：45          会場：【オンライン】Web 会議システム Zoom を利用                    【対面参加】熊本市民会館シアーズ夢ホール          参加：対面参加 7名・オンライン参加 28名 <u>合計 35名</u>          主催：独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部          協力：EPO九州</p> <p>【プログラム】          1. 主催者挨拶          2. EPO九州からの情報提供          3. 熊本県内の助成活動団体の取組紹介                NPO 法人くまもとライフポート（過年度助成活動団体）</p>
目的概要	<p>地球環境基金による2021年度助成公募についての説明会を開催し、活動団体への助言や申請についての支援を行った。開催にあたっては、開催地域である熊本市の中間支援団体や自治体等と連携した。</p> <p>プログラムでは、EPO九州より、環境保全活動と地域循環共生圏との関連について情報提供を行い、地域の助成活動団体の取組紹介として、NPO 法人くまもとライフポート 本田氏より、2019年度に地球環境基金助成を受けた活動について事例紹介を設定し、助成金獲得を志す団体への後押しとなる情報提供の場作りを行った。</p>
打合せ等	<p>■地球環境基金に関するEPO連絡会          日時：令和2年8月27日（木）          会場：川崎市産業振興会館（神奈川県川崎市）</p> <p>■登壇に関する打合せ          日時：令和2年10月14日（水）          会場：くまもとライフポート事務局（熊本県上益城郡）</p>
写真	

②Green Gift 地球元気プログラムへの協力

東京海上日動火災保険株式会社が取組む、CSR 活動「Green Gift 地球元気プログラム」について企画協力する。

1. 全体進行

催事名	GreenGift 地球元気プログラムに関する EPO 連絡会
開催日等	日時：令和2年8月27日（木） 会場：川崎市産業振興会館（神奈川県川崎市） 主催：日本 NPO センター
概要	<p>新型コロナウイルス感染拡大に併せ、体験活動プログラムが実施できない状況が全国で広がる中、本プロジェクトも同様に停滞を余儀なくされていることから、これまでのプロセスの再確認を行うとともに、今後の方針について各地方 EPO と GEOC、そして事務局である日本 NPO センターと協議を行った。</p> <p>各地方の取組状況の共有後、日本 NPO センターより、2019年度の実施状況（イベント開催・代替事業等）、事業の内容、実施基準について情報提供が行われた。議論においては新型コロナウイルスの感染拡大が長期化する点と、地域ごとの判断や社会活動の再開は多様化を極める見込みであること、また With コロナの状況で、自然体験へのニーズは高まっていることを参加者間で共有した。</p> <p>また、令和2年11月に開催する全国振り返り会議の実施手法についても検討を行い、オンライン実施の手法と、各団体の参加メリット等について具体的な意見を交換した。</p>
写真	

催事名	GreenGift 地球元気プログラム 全国振り返り会議 2019-2020
開催日等	<p>日時：令和2年12月10日（金） ※7日（月）開催と2日間に分かれ全国の団体が両日何れか参加。 会場：オンライン 主催：日本 NPO センター</p> <p>【プログラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オープニング</li> <li>2. 2019年度全体報告</li> <li>3. 近況シェア</li> <li>4. ワールドカフェ</li> </ol> <p>セッション1・2「コロナ下での工夫と苦労について」 セッション3「2021年度地球元気プログラムでやっていきたいこと」</p>

概 要	<p>例年開催している GreenGift 地球元気プログラムの全体振り返り会議をオンラインで実施され、地方支援を行う役割として出席を行った。団体数が多いことから、オンライン開催にて2日間実施となり、九州地域の実施団体が参加する12月10日（金）に出席した。</p> <p>プログラムでは主催の日本 NPO センターより、全国でのプログラムの実施状況が共有され、新型コロナウイルス感染拡大の状況で、多くの団体が影響を受ける中、体験プログラムの提供等、地域へのギフトに繋がる活動が行われていることが共有された。全国から各団体が参加していることから、団体及び担当者による近況の共有を実施。九州の実施団体、並びに EPO 九州から、ブロック交流を含めた地域内の状況について発信を行った。</p> <p>また後半のワールドカフェ進行では、ファシリテートと記録を各地方 EPO が務めながら、地域の異なる団体による意見交換や、具体的な活動内容について、コロナウイルス感染拡大を踏まえ、展望等を語り合う場作りを行い、今年度、及び次年度の活動に繋がる、意義のある振り返りが行われた。</p>
-----	--

### 1. 各地域プロジェクト

実施団体	北九州 ESD 協議会（福岡県北九州市）
打合せ等	<p>2019 年度より活動を行う団体であるが、新型コロナウイルス感染拡大下で、複数の計画が中止となっている。</p> <p>EPO 九州として団体の実施支援を継続する。</p> <p>■実施団体打合せ（北九州市） 日時：令和 2 年 7 月 20 日（月） ・今年度実施方針等</p> <p>■東京海上日動北九州支店 打合せ（北九州市） 日時：令和 2 年 7 月 20 日（月） ・本プログラムの企画趣旨、関係者の役割等</p>

## 2. 大分県プロジェクト

実施団体	NPO 法人 ABC 野外教育センター（大分県杵築市）
打合せ等	<p>今2回の体験プログラム開催に向け、東京海上日動大分支店と協議の上実施。新型コロナウイルス感染防止や熱中症対策などについて、密な意見交換を行い、安全な実施を行った。</p> <p>EPO九州の所在地での感染拡大が広がったため、遠隔にて支援を実施した。</p> <p>■実施団体打合せ（大分市） 令和2年9月26日（土） ・今年度実施方針について</p>
開催日等	<p>■第一回プログラム 「きつきビーチエコアクション ～海水浴でビーチ保全&amp;エコクラフト～」 日時：令和2年8月30日（日）13:00～16:00 会場：住吉浜リゾートパーク（大分県杵築市） 参加：25名（スタッフ含む）</p> <p>■第二回プログラム 「さいき川遊び体験～川辺の自然観察会と川遊び体験～」 日時：令和2年9月13日（日）13:00～16:00 会場：直川憩いの森公園キャンプ場（大分県佐伯市） 参加：24名（スタッフ含む）</p>
写真	

## 3. 宮崎県プロジェクト

実施団体	NPO 法人大淀川流域ネットワーク
打合せ等	<p>新型コロナウイルス感染拡大下で、複数の計画が中止となっている。 関係者会議のオンライン実施など、EPO九州として団体の実施支援を継続する。</p> <p>■関係者会議の実施（オンライン） 日時：令和2年12月17日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者の顔合わせ</li> <li>・今年度実施方針について</li> <li>・本プログラムの企画趣旨、関係者の役割等</li> </ul> <p>【参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大淀川流域ネットワーク</li> <li>・東京海上日動宮崎支店</li> <li>・EPO九州</li> </ul>

## (6) EPO 九州の維持管理

EPO九州の維持管理にあたって、スタッフ体制を整備し、各業務を分担、維持管理に努める。なお、スタッフは積極的に所外での連携促進・協働取組への関与、柔軟な相談対応に努めることとし、窓口（開所）業務については市民への情報提供等に差し障りの無い範囲において執行（必要に応じて臨時閉所対応）する。

運營業務の実施にあたっては、九州地方環境事務所担当官と定例会議を開催し、業務進捗の管理を行う。

### 定例会議の開催

概ね月に1回、担当官、運営スタッフ、運営団体による定例会議を開催した。定例会議においては、運営全般に関する事項、個別事業に関する事項の他、円滑な運営に必要な事項を協議する。また、その他必要な事項についてはスタッフミーティングや個別打合せを行い対応した。

開催状況	
第1回	令和2年4月15日（水）
第2回	令和2年5月27日（水）
第3回	令和2年6月25日（木）
第4回	令和2年7月31日（金）
第5回	令和2年8月26日（水）
第6回	令和2年9月16日（水）
第7回	令和2年10月20日（火）
第8回	令和2年11月25日（水）
第9回	令和2年12月23日（水）
第10回	令和3年1月20日（水）
第11回	令和3年2月18日（木）
第12回	令和3年3月18日（木）

EPO 九州の開所状況

EPO 九州の維持管理には、スタッフ体制を整備し、各業務を分担、維持管理に努める。なお、スタッフは積極的に所外での連携促進・協働取組への関与、柔軟な相談対応に努めることとし、窓口（開所）業務については市民への情報提供等において差し障りの無い範囲において執行（必要に応じて臨時閉所対応）する。

【開所状況】

		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
開所日数		63	62	59	57	241
来所者数 (人)	相談	17	19	14	3	53
	情報収集・受取	1	4	0	0	5
	行事参加	0	0	0	0	0
	その他	13	6	4	3	26
	<b>合計</b>	<b>31</b>	<b>29</b>	<b>18</b>	<b>6</b>	<b>84</b>
パンフレット等受付 (種類)	ともに生きる	2	5	6	4	17
	自然・生命	11	7	11	10	39
	ごみ・資源	0	4	2	3	9
	エネルギー・地球温暖化	1	3	1	3	8
	ESD・環境教育	7	6	8	9	30
	助成金・団体支援	2	9	12	4	27
	全国のEPO	5	1	0	5	11
	行政	2	3	1	2	8
	その他	9	10	6	7	32
	<b>合計</b>	<b>39</b>	<b>48</b>	<b>47</b>	<b>47</b>	<b>181</b>

リサイクル適性の表示：紙へリサイクル可

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔Aランク〕のみを用いて作製しています。